

くすりと健康のはなし

薬包紙

第72回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
医薬品情報委員

後藤 博



最近、薬剤師外来をおこなっている病院があります。

薬剤師外来とは、病院薬剤師が外来患者さんに薬の説明や指導をすることににより、治療の向上を目的とした取り組みです。具体的には次のようなものがあります。

手術や検査目的で入院予定の患者さんの常用薬を確認し、入院前にあらかじめ中止薬の確認をして手術や検査をスムーズに行うように説明する入院センターでの取り組み。

抗がん剤治療をしている患者さんに対して医師の診察前に面談を行い、副作用の早期発見・グレードの評価、副作用の支持療法の提案、適切な用法用量の提案、また必要な検査の依頼などを行う薬剤師による診察前面談。

癌性疼痛などで医療用麻薬を開始する患者さんに対して、薬剤師が用法用量や副作用の説明、患者さんの痛みや症状の変化に対して用量や薬剤の変更、ライフスタイルに合った処方提案をする緩和外来。

インスリン注射にて血糖コントロールを行っている患者さんの手

薬剤師外来

技の再確認、低血糖が起きていないかの確認、シックデイなど糖尿病薬が内服できない状況で医師から指示を受けているかなどの確認をする糖尿病外来。

このように薬剤師外来では医師から指導の依頼があったり、指導が必要な患者さんを薬剤師が探し指導することもあります。

最近では医師の診察に薬剤師が立ち会って、医師に処方提案する病院などもあるそうです。

近年、薬剤師は多種多様な役割が求められています。院外処方にも病院薬剤師が関わり、余分な薬の軽減・内服の飲み合わせの確認はもちろん、副作用の確認や検査のチェック、副作用の経過の確認やインスリンなどの手技確認などの指導を行うことで治療の向上につながっています。

医師に相談しにくいことや不安なこと分らないこと、相談し忘れたことなどあれば、薬剤師に相談してみるのはいかがでしょうか。お近くの病院で薬剤師外来をやっているならば、より相談しやすいかもしれません。